

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	主な教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習 の時間	防災学習	防災士、まちづくりセンターの方、地域の方、三隅中央会館、避難所設備、三隅消防署の方、三隅防災自治課の方
ねらい	災害を知り、防災を考え、行動できる中学生になろう		
<p>1 取組の概要</p> <p>①防災ガイダンス:今後の防災学習について説明を聞く。2018年西日本豪雨災害のビデオを視聴する。お店にいるときに、大雨による避難指示が出た場合、どうやってどこに避難をするか、グループワークを行う。</p> <p>②防災学習講演会:ふるさとの災害(水害:昭和58年)や防災について、防災士のお話を聞く。</p> <p>③避難所設営体験:三隅中央会館で、避難所設営体験等を行う。(防災自治課、まちセン)</p> <p>④住民参加型防災訓練・防災ヘリ見学:三隅町全体での防災訓練。三隅中央公園競技場にて防災ヘリ訓練の見学。(防災自治課、消防署)</p> <p>⑤災害対応ゲーム「クロスロード」:災害の時に起こりうる様々な出来事についてどのように行動をするのか考え、様々な意見や価値観を共有する。(防災自治課、まちセン)</p> <p>⑥避難所運営ゲーム「HUG」:避難所で起こりうる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する。(防災自治課、まちセン)</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力をつけるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>ふるさとの災害を自分の身近なこととして捉え、もし被災したらどのような行動をとればよいか、地域の一員として防災について考える力を身に付ける。そのために防災士の方から被災時の役割や行動等を聞いたり、避難所体験等から事前準備の必要性や自分にできることを考えたりする活動を取り入れた。三隅町のハザードマップなどの資料を活用して「どこにどのように避難をしたらよいか」を考えた。また、地域の人と「クロスロード」や「HUG」の活動を行うことで、お互いに意見を出し合い、価値観を共有し、「三隅のために」というふるさとへの愛着や貢献意欲があがるようにした。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>防災に関する知識が深まるように、「講義」「活動」「体験」を取り入れた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>防災士の方からお話を聞き、ふるさとの災害時の被害状況を知ったり、災害時と現在のふるさとの姿を比較したりするなど、災害を身近なこととしてとらえる力がついた。「HUG」では、三隅中学校が実際に避難所になったらという想定のもと活動を行い、地域の方と一緒に活動をすることで、(中には、保護者の方の参加もあり)、家に帰ってからも防災についての話題があがるなど、ふるさとへの貢献意欲があがった。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)

(学力育成の視点から)

三隅町の防災マップを使うことで、見方や活用の仕方を知ることができた。自分の家から避難所までの距離はどのくらいか、洪水リスクがあるか、防災バッグに何を準備するか等、災害時の危険を予測する力がついた。「HUG」では、瞬時に状況を判断して、協力・役割分担をして活動を行う力を養うことができた。

4 課題や今後の展望

今年度は、防災学習の避難所設営体験に加え、新たに「クロスロード」「HUG」などの体験活動を取り入れた。これらの活動はすべて地域の方との活動にした。今までの反省にあがっていた「生徒の自主性」を引き出すために、活動によって地域の方の方は見守るだけの形にしたり、地域の方と一緒に考える形にしたり、地域の方も同じ活動をするけれども同じグループにはせず、後で意見交換などを行うことなどにした。それにより、生徒は大人に頼らずに自分たちだけで考え協力して取り組むことで、防災への意識が高まるとともに、ふるさと三隅における防災への意識も高まったように感じた。また、地域の方と同じ空間で活動をともに行うことで「ふるさと」への貢献意欲があがったように思う。



* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

(このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。)